第二回「川柳を楽しむ会」作品発表

日時　令和2年2月1日(土)午後3時～6時
会場「ウメ子の家」新宿東口店

小栗講師の講義「川柳に見る江戸の四季」に引き続き、皆で自作の作品の発表をしました。小栗講師には作者を伏せて事前に作品をお渡し、選者になって頂き、全応募作品の中から、天・地・人を選んでいただきました。
（川柳の世界では１位・２位・３位　松・竹・梅と同じです）

小栗講師の寸評は次の通りです。

① 川柳は五・七・五（字数）を守った方が良い。
② あまり散文的にしない方が良い。韻文が良い。
③ 読んで意味が分かるものであること。
④ 感情をそのまま使わない→寂しく・悲し等は使わなくて感情が伝わる言葉を選ぶ。
⑤ 現代川柳の作家はダジャレを好まない。

川柳投稿作品（令和２年１月）

宮田　栄子さん

1. 朝ドラに　故郷（ふるさと）見たり　五平餅　→　天
2. 同窓会　母校語って　ワンチーム
3. 温暖化　師走会津の　雪無風呂（ゆきむぶろ）

水野　久志さん

1. 小里川の　白き流れも　今は青
2. 瑞浪に　リニア開通　姿なし
3. お年玉　姪に与えし　空財布

伊藤　一徳さん

1、また来いよ　寂しく笑う　額の母
（仏壇の脇に掛けてある、おふくろの写真を見て）
2、白い川　よく泳いだな　今は無理（昔、白かった土岐川でおよいだなあ）
3、知らなんだ　あの煙から　喘息か（美濃窯業の煙突を仰いで）
4、川清く　住み易いかな　魚たちよ（昔は川が陶器工場の排水で汚れていたが、今は透明に、しかし何故かあの頃の方が）

加藤　桂吾さん

1. ダチャカンと　通った線路よ　今いずこ（だちゃかんと、かよったみちよ　いまいずこ）
2. 故郷や　家を開ければ　クモの糸（ふるさとや、いえをあければ、くものいと）
3. クラス会　話せば今も　十八歳（くらすかい、はなせばいまも、じゅうはっさい）　→人

塚本　信行さん

1. ふるさとに　帰る車中の　くに訛り
2. くに訛り　聞いて懐かし　中央線
3. 多治見駅　通る頃より　東濃弁

長谷川　周三さん

1. ときは今　アウトレットと　シャッター街　（作：土岐源氏）
2. 迷い道　三叉のペンが　道しるべ　（作：誠実・自主・自立人）　→　地
3. たわけより　とろい奴らは　糞たわけ　（作：東濃馬鹿軍団）
4. レバノンに　ゴーンがついたか　除夜の鐘　（作：逃亡者）

大地　秀代さん

1. 思い出は　桜並木　毛虫坂
2. 帰るたび　変わる景色に　道迷う
3. 笑う門　切に願う　福来いと

虎澤　昭久さん

1. 誰も居ぬ　実家に西日　西部劇
2. 突然の　同級生に　謙譲語
3. 白ワイン　いくら飲めども　赤ら顔

川野　勝喜さん

1. 茜空　三国山に　陽は落ちる
2. 明智行き　国鉄バスは　ひとむかし
3. 363　自転車乗りが　旅気分

松原　博隆さん

1. やっとかめ　会った瞬間　くに訛り　　：土岐氏
2. 転勤で　故郷（ふるさと）持たぬ　吾子（あこ）悲し　　：リーマン

3. 想定外　大雨よりも　森田知事　　：チーバ君の友
4. キャッシュレス　妻の一言　空財布　　：ワンコイン亭主

下条　宗男さん

1. 銀輪に　見え隠れする　太腿懐かし
2. ムチムチの　オッパイしゃぶる　ごへいもち
3. ぬけがたし　牛の呼ぶ声　今朝の床
4. つきたての　餅のしながら　柔肌ぞ偲ぶ
5. 植え終えた　みずた（水田）に映える　帰途の月
6. 同窓会　触れて燃えいず　青春の香
7. 田植えご（女）の　胸の谷間に　足踏み外し

以上　11 名